

令和6年度 飯塚市事務事業評価シート

令和 7 年 5 月 26 日 作成

事務事業名	飯塚市内線バス路線維持事業					事務事業No.	653 - 4				
1. 基本情報											
担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名					
市民協働部	地域公共交通対策課	企画係	主任	中嶋 淑朗	課長	田中 善広					
施策体系	総合計画	政 策	6	都市基盤・生活基盤							
		施 策	5	定住環境・公共交通の充実							
		基本事業	3	生活交通の維持・確保							
	その他の計画	個別計画	飯塚市地域公共交通計画								
根拠法令・条例・要綱等	補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律、福岡県バス運行対策費補助金交付要綱										
事業開始年度	令和3年度	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業						
実施手法	補助金・負担金交付	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	令和6年度～令和8年度						
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）											
概要	赤字運営となっている民間乗合バス路線に対して赤字補填を行うことにより、市民の生活に必要なバス路線を維持する。										
対象	働きかける相手・もの	バス運行事業者（西鉄バス筑豊株式会社）									
手段	方法・働きかけ（活動指標）	赤字補填を行う。									
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	路線を維持しつつ、より利便性の高いものとすることで利用者の増加を図る。									
3. 活動指標（決算成果説明書と連動）											
指標名	単位	指標の説明（算式等）			前年度実績	本年度実績	次年度見込				
バス路線維持負担金	千円	飯塚市内線の存続に係る赤字補填額			58,292	66,737	84,681				
バス利用促進に関する啓発・広報活動	回数	各種イベントやメディア等を活用した広報活動の回数			4	5					
4. 成果指標（決算成果説明書と連動）											
指標	年間利用者数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込				
		人	780,000	目標値	780,000	780,000	780,000				
説明	飯塚市内線における前年度10月から当該年度9月までの輸送人員	方向性	達成目標年度	実 績	656,845	668,972					
		維持	毎年								
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込				
				目標値							
説明		方向性	達成目標年度	実 績							
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込				
				目標値							
説明		方向性	達成目標年度	実 績							
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）											
経費区分	一般会計	政策的経費				特別会計	—				
予算科目・事業	会計 1	一般会計			款 2	総務費		項 1	総務管理費		
	大 3	公共交通対策事業費			中 5	飯塚市内線バス路線維持費【政策】		目 6	地域振興費		
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)		前年度実績 (千円)		本年度実績 (千円)		増減理由 (10%以上の場合)		次年度予算 (千円)		
	正職員	0.14	人	1,113	0.14	人	1,141	燃料費等経費増加に加え、令和5年度には市から事業者に交付された支援金「地域公共交通燃料費等高騰対策支援金」が本年度はなかったため。	0.14	人	1,141
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0		
人件費計 (A)		1,113		1,141				1,141			
事業費	直接事業費 (B)	58,292		66,737				84,681			
	総事業費 (A+B)	59,405		67,878				85,822			
直接事業費のうち の主な歳出内訳	負担金補助	58,292		66,737				84,681			
	—	0		0				0			
財源内訳	使用料・手数料 (受益者負担分)	0		0				0			
	国・県支出金	1,362		1,651				1,481			
	市債	0		0				0			
	一般財源	58,043		66,227				84,341			
	その他 ()										

6. 事務事業の事後評価★				
評価視点		評価	評価の理由、または認識している課題を記載	
妥当性 評価		高い	バス路線維持のための民間事業者への赤字補填は行政の役割であり、市の負担金による受益者は特定の交通事業者となるが、バス路線を維持することは市民生活の利便性を確保し、広く市民の利益に繋がるものであり妥当である。	
効率性 評価		高い	民間バス事業者における赤字を解消することが現行の路線維持には欠かせず、効率性が高い。負担額については事前に事業者を確認・協議し適正な赤字補填契約を行っているが、近年のコロナ感染症に伴う運賃収入の減少や燃料費の物価高騰等により、事業費が年々増加していることが課題である。	
有効性 評価		高い	市民の日常生活における移動手段の確保に貢献しており、赤字補填をすることによりバス路線を維持するため、今後も継続の必要性がある。	
7. 前年度評価時の計画と実績				
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★		
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに	市民のバス利用を促進するための啓発を強化する。	
	現状維持	実施できる改善策		
	一次評価	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	路線バスの効率的な運行や適切な赤字補填等について、運行事業者と協議する。 全市的に持続可能な公共交通体系を構築することにより、路線バスの赤字削減を図る。
		現状維持		
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入				
市報をはじめとする各種広報媒体に民間公共交通機関の利用を呼びかける記事を掲載するとともに、みんなの健幸・福祉のつどいに参加し、公共交通の維持に関する市民の意識を喚起することができた。また、西鉄バス関係者との意見交換を通じて、運行事業者と行政との協力による赤字削減の方策等について協議することができた。				
8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★				
〔成果〕	赤字補填することにより、路線を維持することができ、目標値には達していないものの利用者数が増加した。			
〔課題〕	公共交通業界における運転手不足の問題への対応や、新型コロナウイルス感染症の影響後における利用者の確保、より効率的な運行のあり方など、路線維持の方策について継続して協議する必要がある。			
9. 今後の事業の方向性と改善策				
成果の方向性		〔理由〕 赤字補填を行うことにより、市民の日常生活の移動手段として、安定的な民間バス路線の確保・維持を継続していく。		
現状維持				
コスト投入の方向性		〔理由〕 コスト削減について、市民へのバス利用の啓発等による運賃収入の増加を図るとともに、バス事業者と路線維持の方策について協議を続けていく。 燃料費の物価高騰等により赤字補填事業費は年々増加している中、広報等により利用者増に伴う運賃収入増を目標とする。		
現状維持				
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★				
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策		市民のバス利用を促進するための啓発を行う。		
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策		路線バスの効率的な運行や適切な赤字補填等について、運行事業者と協議を行う。 全市的に持続可能な公共交通体系を構築することにより、路線バスの赤字削減を図る。		
評価変更理由	成果の方向性		複数の関係部署等とも連携し、市民の移動手段をどのように守っていくのかという観点で効率的な事業運営を行っていくこと。将来的には、無人運転等も含め、画期的な事業の検討も行っていただきたい。	
	拡充			
	コスト投入の方向性		今後、必然的に経費が増加していくと考えられるため、コストは増加していくものと思われる。このことから、様々な事業や方策を検討し、コストの増加を抑え、効率的に事業を進めていくよう検討が必須である。	
	拡充			